

さわかぜ

sanwa chiku-syakyo

発行責任者: 三和地区社会福祉協議会
会長 安藤 洋左右
編集: 三和地区社協 広報部
事務局: 三和保健福祉センター内
(サンハート内)
電話: 0436-37-7100

＝改革検討の沿革＝

- ・ 8月20日第3回役員会→組織改革検討委員会の設置確認
8～9月/4回の検討委員会開催
- ・ 10月15日第5回役員会→組織改革検討委員会答申書説明
主に助成金の在り方を論議
- ・ 10月19日第6回役員会→答申に基づく対応審議
主に賛助会費の在り方、現行規約上の指摘事項について論議
- ・ 10月22日第7回役員会→答申に基づく対応審議
主に役員人選に係る対応論議
- ・ 11月19日第8回役員会→答申に基づく対応審議
主に賛助会費の独立会計化および基金化の目的・ビジョン論議
*初回役員推薦委員会の開催は12月6日9:30～を確認

三和地区社協の20年度は、コロナ感染防止諸施策が打ち出される中でのスタートとなりました。このため、三密防止やソーシャルディスタンス確保の観点から、拠点施設(サンハート)の閉館や諸会議・諸行事等の開催見送りや中止を余儀なくされる厳しい制約を受けることとなりました。これまでの計画行事が相次いで中止される中、地区社協は、この機を活かし、活動の見直しや組織風土の改革を進める好機と捉え、地域に対する福祉活動の在り方や地域の声をより活動に反映させるための組織改革に取り組んで行くことを8月役員会で決議。以降、現在もその取り組みを推進しております。

以下、方向性が確認された内容についてご紹介いたします。

コロナ禍を次年度Stepに

地区社協組織風土改革に取り組む

決算集計自動化導入 予算科目の改編・活動見える化に力点

会計制度改革

地区社協の会計(4月翌年3月)は、3月末決算締切後、年間支出を科目ごとに集計作成されてきました。

この科目別集計をPCのエクセル表計算機能を活用し、自動集計の上、あらかじめ定められた決算書フォームに自動リンクさせることで、決算書が作成される仕組みへシステム改善を実施。

これにより、会計担当者、日々の通帳入出金と現金の動きのみ記録するだけで、自動的に決算書が作成される仕組みが完成し、現在この仕組みに基づき会計管理が実施されるようになりました。

このシステム採用の利点は、日々決算が可能であり、会計期間のどの時点であってもオンタイムの決算書をアウトプット出来る特徴があります。

換言すれば、いつでも予算執行状況を確認でき

ることから、予算対比の活動進捗が「見える化」されたこととなります。

また、従来の会計監査

賛助会費/一般会計改め独立会計へ

目的・ビジョンを定めた基金へ移行

賛助会費の在り方

賛助会員規程第5条では、会費の使途を明確に周知することが定められています。一方、現状の会費は一般会計に繰入れられ、賛助会費のみを抜き出して使途報告をすることは、困難な状況にありました。

この現状を改革すべきだ、との考え方に基き、会員の理解と協力が得られるビジョンを策定する一方、基金として独立会計へ移行するのが望ましい、との方向性が確認されました。次のステップ

< 基金化初年度基金移行金額の考え方 >

	2016年	2017年	2018年	2019年
A) 年度一般予算	6,123,678	6,020,774	3,073,113	3,980,892
B) 内賛助会費分	429,000	412,000	515,000	544,044
C) 年度決算額	4,433,766	4,435,509	1,861,956	
D) 年度予算執行率	72.4%	73.7%	60.6%	
E) 賛助会費残高(理論値)*E=B×(100-D)	118,388	108,479	202,969	※注1 544,044
4年間のTotal賛助会費理論残高	973,880			
初年度基金移行金額(百円台四捨五入)	974,000			

* 金額単位: 円 ※注1: 19年度は実質未使用のため全額移行

として、①初年度の移行金額をどう考えるか、②基金の使途をどう定めるのかについて論議が交わ

活動本位の予算へ

従来予算は事業別に編成されていましたが、実務的には7部会制で運営され、事業予算と担当する部会との予算が直接的に結びつかない(見えずらい)状況にありました。

予算科目を部単位へ改編し、部に事業を割り振ることで予算の「見える化」を図ると同時に、予算策定に部会長の意思を反映させる活動本位の予算編成へ切り替える方針が確認されました。

助成金の在り方

地区社協傘下の各団体へ支給される助成金合計は29万円、加えて個別事業支援25万円、合わせて54万円(19年度実績)が定額支給され、年度予算の46%強に達し



11月19日
5時間半におよぶ論議となった第8回役員会

役員推薦委設置 幅広い人材登用を図る

役員人事(会長・副会長・事務局長)については、その職責上、任期が長期化せざるを得ない実情にありました。

また、役員方法も『総務会の互選による』との現行規約も長期化を招く一因であり、人事の硬直化

る案が地域住民の理解を求めるには合理的との結論に至りました。

基金化の目的・ビジョンについては、①貧困家庭向けの教育資金支援の制度化②三和地区独自の制度③交通支援サービス④地区各1名の代表審議にその結論を委ねることとなりました。

を避け、地域から幅広い人材の登用を図るべく、改選期は役員推薦委員会(現行役員を除く第三者機関とし、各地区から2名の推薦委員を選出)し、役員推薦を受ける方式に改めることが決議されました。

ています。

今後、助成金の目的や使途を明確にし、地域住民の福祉に資する支給へ切り替える観点から、支給規程を定め、申請に基づく助成金支給とする方向性を確認し、具体的な規程内容の検討を進めて行くこととなります。

回顧録

回顧録新シリーズは、海上地区・新生町会へお住まいの阿部孝さんにその半生を振り返って頂き、ご紹介してまいります。



公益財団法人全日本軟式野球連盟
関東軟式野球連盟連合会 理事

千葉県野球協会

理事長 阿部 孝

シリーズ ①

私は今年喜寿を迎えた。これを契機に自身の人生を少し振り返って見たい。一口に言えば野球との共生なのだろう。それは昭和42年、市原市職員へ採用されたことからスタートする。その夏、上司から「市職員チームのマネージャーになりなさいか」との誘いを受けた。仲間内の力になりたい思いから

これを快諾した。プレーヤー経験の殆んどなかった私は、サポート役に徹する意味から、審判員の資格取得を目指し、翌43年、千葉県公認審判員資格を取得した。更に、その翌年(44年)市原市野球協会理事を拝命し、市職員としての本務に専念する傍ら、私の余暇は、チームマネージャー、休日は審判

一口に言えば野球との共生 それは昭和42年に始まる

員、時々理事会への出席と言ったように、野球との関係は増々深まっていった。理事として2年を経たある日、当時の理事長、某氏から突然の電話。その内容は、自身の移動と後はたのむと言う、用件のみを一方的に告げ、電話を切るというものだった。不快な思いはあったものの、後日の理事会の席上にて、理事長への推挙が可決され、市原市野球協会理事長へ就任することとなった。その役割と言え、対戦チームの組合せをはじめ、球場の手配や審判員の割振り等、私的時間の多くを費やす

ものだった。加えて、前任者の後任とのこともあり、県の協会理事もそのまま引き継ぐことになり、この年(46年)開催される第7回常陸宮賜杯標準硬式野球全国大会・千葉県開催のおまけまでついていた。県協会の理事として新任の私だったが、副会場長の役割を与えられ、プログラム広告の sponsor 集めに奔走。開催期間中は、ライオン引きや接待飲食等の雑用に加え、審判不足を補う審判員への変身も果たし、何でも屋の会成功への一助を担った。



被害を受けた
屋根もキレイに
修復が完了

このため、町会としてこの復旧に尽力してまいりましたが、このほど、ようやく完成に至り、遷座祭が執り行われました。工事に際しては、六月に仮遷座祭(ご神体を仮殿に移す祭儀)を行い、本殿の復旧を以って、この九月にご神体をお迎えいたしました。



山田町会神明神社遷座祭の様子

た。平素、ご開帳する機会が少ない本殿には、古い蔵書もたくさん見受けられ、神明神社の歴史を垣間見る機会ともなりました。これからの町会の安寧と各戸の発展を見守って頂くシンボルとして、歴史を刻んで行くことでしょう。

三和地区募金集計額/11月19日現在

¥383,836-

みなさまのご協力に心より感謝申し上げます



Thank you

地区名	募金額
市西	89,900
養老	105,500
海上	80,200
光風台	95,200
個人(7名)	13,036
Total	383,836

【各地区の募金状況】

市原市社会福祉協議会は共同募金会歳末助け合い運動の一環として募金活動を展開いたしました。その結果、当三和地区の募金集計額は、三十八万円を超える金額となりました。十一月十九日現在・地区社協集計分

この募金は一旦は共同募金会へ納付された後、市社協を通じて各地区民生委員が配布する歳末見舞金(低所得世帯への見舞金)として、また、各ネットワークが申請・実施する歳末福祉事業の助成金として支給されます。

みなさまの温かいご支援に改めて感謝申し上げます。



2.4 kmコースに挑む高学年生

十一月二十六日(予備日・二十七日)の日程で、市西小学校マラソン記録会が開催されました。同小学校では①寒さに負けない丈夫な体をつくり、持久力の向上をはかる。②一人一人が目標を持ち、努力を続ける。③自己の健康管理に気遣う習慣を身につける。―をねらいとして、練習にも臨んできました。

また、市西小域ネットワークのみなさんや福増町会のみなさまには、コースの草刈りにご協力を賜り、保護者

市西の輪(和)・牽引に期待

山田町会の神明神社は、一昨年(令和元年)の台風により、本殿社

台風被害を乗り越えて

山田町会・神明神社

のみなさまには、子どもたちの日々の体調管理にお気遣いを頂きながら開催につなげることができました。

当日は、低学年(一・二・三年生)、中学年(三・四・五年生)、高学年(五・六・年生)それぞれの体力に見合った設定コースに挑み、元気に走り

りました。コロナ禍にありながらも、子どもたちの頑張りは時節を忘れさせるひと時となりました。同小は、認知症サポート教育にも積極的に取り組んでおり、今後も地域の輪(和)を牽引する力になる期待が掛けられています。



ローカル
フラッシュ

“たすけあい三和” 年末年始休業のお知らせ

12月25日(金)～1月13日(月)の間お休みです!